

皆様のご参加お待ちしております！

2つのセミナー開催！ 障がいのある方への就労支援セミナー

◆障がいのある方への在宅就労支援（12月14日開催）

午前は、神奈川リハビリテーション病院の職能科の松元さんより、在宅就労支援の世の流れや障がい者雇用の制度の概要、神奈川県リハビリテーション病院職能科の支援の紹介などについてお話があり、その後職能科の作業療法士の露木さんより、作業療法士の視点で行う就労支援についてのお話し、七沢自立支援ホームの矢部さんより、視覚障がいのある方への就労支援状況と視覚リハビリテーションについてのお話しがありました。



午後はハローワーク厚木の関野さんより、神奈川県内の在宅勤務での雇用及び求人の状況についてや関係機関との連携支援についてお話しをいただき、その後神奈川障害者能力開発校の佐々木さんより、障害者就職促進委託訓練 e-ラーニングについてお話しいただきました。そして、就労移行支援事業所 manaby の齋さん、佐藤さんから事業所の紹介や精神・発達、障がい者の在宅就労について事例を交えながら紹介していただき、就労移行支援事業所 Do-will の鈴木さんより、重度身体障がい者の在宅就労者の働き方の紹介、就労移行支援事業所 Do-will と就労継続支援 A 型事業所 scoop の紹介をしていただきました。（一木 愛子）

講師 ◆就労移行支援事業所 Do-will 鈴木 千恵子氏 ◆神奈川障害者能力開発校 佐々木 政昭氏
◆就労移行支援事業所 manaby 齋 善晴氏 佐藤 結史氏 ◆ハローワーク厚木 関野 敦子氏
◆神奈川リハ病院 職能科 松元 健 露木拓将 ◆七沢自立支援ホーム 視覚障害支援 矢部健三

◆高次脳機能障害セミナー 就労支援編（2月8日開催）



高次脳機能障害者の就労支援に携わっている講師陣をお迎えし、講演、グループワークによる事例検討会等盛りだくさんな内容で行いました。講演では大阪でご活躍されている「就労移行支援事業所クロスジョブ阿倍野事業所」所長の辻氏より、クロスジョブでの取り組みや高次脳機能障害の就労支援の核となる部分を中心に講演いただきました。クロスジョブでは、所内の作業以外にも職場体験実習を通して振り返りや自己モニタリング等への支援にも重点を置き、実習先の開拓も熱心にされています。

就労先の企業へ高次脳機能障害を知って頂き雇用が継続できるようにすること、また「医療から就労まで、雇用後まで、長期に渡って他機関との途切れない連携が必須」というお話は、高次脳機能障害の就労支援における重要な核となる部分であり、参加者の方々にも共有していただける絶好の機会となりました。講習会終了後も熱心に意見交換をされている方々もおられ、明日からの実践への熱意が感じられました。

就労支援編は、県内の様々な地域で顔の見える繋がりのために毎年開催場所を変えています。これからも、皆さまのいる地域のご協力をいただきながら開催していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。（中澤 若菜）

講師 ◆就労移行支援事業所クロスジョブ阿倍野事業所 辻 寛之氏 ◆神奈川障害者職業センター 大下 哲次氏
◆障害者就労・生活支援センターばけっと 渡辺 直人氏 恩蔵 幸一氏
◆神奈川リハ病院 職能科 松元 健 今野 政美 山崎 修一 小林 國明 露木 拓将
相談科 中澤 若菜 永井 喜子

健康で快適な生活・活動的な生活を送るために

◆からだにやさしいポジショニング（12月17日開催）



今回は全国적으로活躍されている、一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワークの理学療法士の下元佳子先生を講師にお招きし、「ポジショニングは臥位では健康を守るための快眠をサポートし、座位では健康を守り活動的な生活をつくる」の考えのもと、臥位姿勢、座位姿勢のポジショニングの基礎を学習しました。ポジショニングを行うにあたっては、身体の重さを支える場所と、動く場所（動きを出す・出せる場所）である関節の関係性について着目し、実習では、姿勢のアセスメントを「重さの流れ」という視点で捉え、クッションの差し込み方から姿勢の見かたなどについて実際に身体で体感しながら確認しつつ、グループに分かれ学習しました。

（一木 愛子）

講師 ◆一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク 理学療法士 下元 佳子氏

実技講師 ◆神奈川リハビリテーション病院 理学療法士 那須田 依子 作業療法士 湯浅 良介

◆地域リハビリテーション支援センター 小泉 千秋 一木 愛子



◆車椅子シーティングの理論と実際（1月25日開催）

今回は、南松山病院の作業療法士の土居先生をお招きし、車椅子シーティングについての研修を行いました。内容は座位姿勢や車椅子、クッションについての講義と、日常生活活動として食事動作をテーマに車椅子やベッド上での姿勢調整の体験や実演が行われました。講義では座位姿勢の調整の重要性について、実際に座圧分布を例にあげながら説明がありました。実技では、姿勢不良が摂食嚥下に及ぶ影響について、実際に座位姿勢等での嚥下体験を通じて体感しました。今までの車椅子シーティング研修では、リハエンジニアや理学療法士の講演はありましたが、今回は作業療法士の視点から、姿勢調整に必要なポイントについて幅広く学ぶことができました。

（小泉 千秋）

講師 ◆医療法人仁友会 南松山病院 作業療法士 土居 道康氏

実技講師 ◆神奈川リハビリテーション病院 理学療法士 森田 智之 リハエンジニア 辻村 和見 松田 健太

◆地域リハビリテーション支援センター 小泉 千秋 一木 愛子



見て・触れて・着けて体験する研修！！

◆脳血管障害のリハビリテーションの実際 ー下肢装具編ー（2月1日開催）



今回は、下肢装具の知識から作製に関わるポイントについて講義と実技が行われ、実技では、通常の装具だけでなく普段経験できない装具での歩行体験も行い、装具適合の重要性を体感しました。グループワークでは回復期と生活期の2症例の装具作製についての検討が行われました。少人数グループであったため、活発な意見交換が行われ、実践に活かせる内容であったと思います。（小泉 千秋）

講師

◆有限会社大宮義肢研究所 義肢装具士 松崎 治氏

◆神奈川リハビリテーション病院 理学療法士 村山 浩一 守屋 栄理子 佐々木 亜紀



◆ロボットを活用したリハビリテーションの実際（2月15日開催）



HAL
ReWalk
ExoAtlet
日本初！

今回は、立位や歩行機能向上に向けた外骨格型ロボットを活用したリハビリテーションをテーマに開催しました。ロボットリハビリテーションについて、国立障害者リハビリテーションセンター研究所の愛知先生から総論の講義があり、実技では、神奈川リハビリテーションで使用しているHALやReWalk、ExoAtletの体験を行いました。使用体験では、参加者全員がロボットを装着した歩行と歩行介助体験を行いました。普段なかなか経験できないロボットの歩行では、参加者は戸惑いながらも貴重な経験ができたのではないかと思います。（小泉 千秋）

講師

◆国立障害者リハビリテーションセンター研究所 流動研究員 愛知 諒氏

◆神奈川リハビリテーション病院 理学療法士 浅井 直樹 丸谷 守保

協力

◆EXOATLET 李宗映氏





自由に日中活動を行うための環境づくり

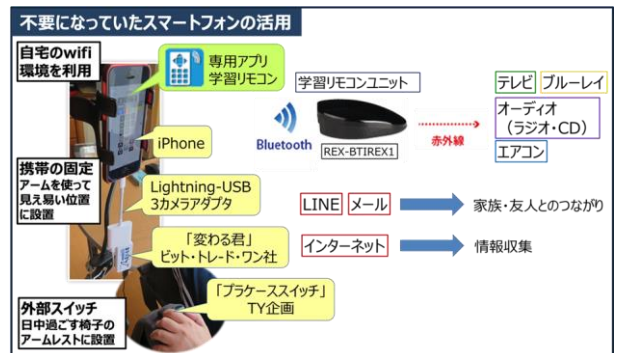
～身近なスマートフォンを使って～

訪問作業療法士からの電話相談を受け、同じチャンネルを見ているのはつまらないという本人の訴えと、指の動きだけで、起動から操作までできるようなものや方法があれば知りたいという本人と訪問 OT のニーズに対し、自宅へ訪問し検討いたしました。

ケースは 40 代の ALS の男性で、身体状況は、上肢は右の第 2 指、左の第 3 指、第 4 指の屈伸の動きは可能で手指機能は保たれてはいましたが、徐々に低下してきていました。下肢は比較的保たれていて、立位や歩行器での歩行は軽い支えの介助で可能でした。日中活動はパソコンを使い、インターネットやライン、写真の映像の作成などを行っていましたが、以前よりマウス操作が行いにくくなり、手の位置が変わってしまうと元の位置に戻せなくなっていました。

検討していくにあたって身体状況を評価し、まずはパソコンの操作方法を検討しました。マウスの操作は足での操作を提案し、問題なく行えるようになりました。

次に自宅で不用となっていたスマートフォンを利用する方法を提案し、外部スイッチでのスマートフォンの操作方法を検討しました。機器との接続はインターフェース変換装置を用い、スイッチはプラケーススイッチを選択し、日中座って過ごす椅子のアームレストに設置し、人差し指で操作することとしました。また Bluetooth 対応学習リモコンユニットを用い、テレビ、エアコン、ブルーレイ、ステレオなどの家電操作ができるように設定しました。その後訪問 OT と練習を開始し、操作が可能となり、日中の時間も楽しめるようになりました。



近年スマートフォンはとても身近な物となっており、障害のある方にとってのユニバーサル機能も充実してきています。特別な機器を使用しなくても、支援者がスマートフォンの機能を理解し、活用できるよう支援ができれば、充実した生活を実現する道具の一つとして期待できると思います。機器選定にあたっては、概念的に行うのではなく、身体の特徴に合わせて、しっかりとした評価に基づいて行う必要があります。リハビリテーション専門相談では、支援者の方と一緒に確認する過程を通じて、新たな気づきが生まれることがあります。地域でお困りの際には、お気軽にご相談ください。何かヒントが見つかるかもしれません。

(一木 愛子)

令和元年度 4～1 月リハ専門相談実績 (1/31 時点)

4～1 月(1/31 時点)	新規	継続	電話	訪問	来所	メール
脳性麻痺	11	16	19	7	1	0
神経・筋疾患	28	61	61	22	1	5
脳血管障害	21	4	22	1	2	0
脊髄疾患	6	10	10	2	4	0
脊髄損傷	8	15	19	1	3	0
骨関節疾患	2	2	4	0	0	0
後天性脳損傷(除CVA)	15	3	17	0	1	0
知的障害	7	3	6	4	0	0
内部疾患	0	0	0	0	0	0
その他(切断・加齢等)	31	15	44	0	0	2
不明	2	4	6	0	0	0
合計	131	133	208	37	12	7

4～1 月(1/31 時点)	訪問	来所
補装具・福祉用具機器	22	4
環境整備	3	0
身体機能評価	9	3
ADL指導	0	0
訓練プログラム指導	0	0
介護指導	3	1
支援内容検討	0	3
医療	0	1
その他	0	0
合計	37	12

相模原市にて事例検討会を行いました！

令和2年1月17日に相模原市の地域活動支援センター ぷらす★かわせみにて、高次脳機能障害事例検討会 in 相模原を開催しました。今年度3回目の開催で、普段より高次脳機能障害者支援にかかわってくださっている地域の支援者の方を中心に18名の参加をいただきました。

別疾患が原因で、入院を機に、今までの生活設定を見直す必要が出てきたケースをテーマに、グループに分かれて様々なアプローチの方法を提案していただきました。参加者の方からは、様々な領域・職種の方とグループワークを行ったことで、自身の専門領域外のサービスの活用方法について知ることができたとの感想をいただきました。また継続して参加いただいている方からは、ここで様々な領域の支援者の方と知り合うことができ、地域でのシームレスな支援の一助となっているとのうれしい声をいただきました。今後も地域の支援者の方とともに高次脳機能障害支援を発展させていけたらと思います。

(永井 喜子)

高次脳機能障害のリハビリテーション

第11回

「高次脳機能障害- 全人的包括的な神経心理学的リハビリテーションと関連して」

今回は、高次脳機能障害について、本シリーズのこれまでのレビューをさせていただこうと思います。

高次脳機能障害の難しさは、多くの因子が絡むことに起因すると思われます。従って、英国のフォーミュレーション Formulation のように、その評価は様々な因子をみることになりますし、その目標も一つの因子を改善するだけでは足りないことになります。当院では、安定した生活の再構築を目標とし、病棟生活、自宅生活、社会生活、職業生活と広げていくことを提案しました。

記憶障害、脳疲労、不安への対応も話題にさせていただきました。こうした対応法（ストラテジー strategy と呼びます）を手段（ツール）として用いて、その時目指すべき生活を安定化させていただけるとよいのだと考えています。なるべく多くのツールを知っていただくと同時に、それを良いタイミングで使い分けるマネージメントの能力もポイントになります。そして、identity の確立や well-being の達成を目指す。これは「自己の気づき self-awareness」と非常に近い概念なのだそうで、すなわち「己を知る」ということが目標になってくるわけです。

高次脳機能障害のリハビリテーションは、高次脳機能障害がない方にも有用となる。生きるとは何かということにつながる。ということは、悪く言えば曖昧模糊とした領域なわけですが、ポジティブに考えれば、いつまでも適応のための変化をしていけるということです。皆さんが「自分らしく生きる」ためには何をしていけばよいのでしょうか。identity とは多層構造なのだそうで、ということは identity を下支えする地味な毎日の活動や環境が思う以上に大事なことになるようです。

約2年にわたりました今シリーズもいよいよ最終回となりました。ご愛読、本当にありがとうございました。
(Thank you very much for your keen interest !)

(青木 重陽)

編集後記 発行月の関係で、新年のご挨拶が遅れてしまいましたが、本年も、当地域リハビリテーション支援センター事業へのご理解・ご協力をお願いするとともに、この「だより」をお読みの皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。 (●^o^●)

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
TEL:046-249-2602 FAX:046-249-2601

(It is important to wash your hand and gargle regularly to prevent infection!) (y.i)